

柿 特報 No.2

H30.4.27

J A 中野市営農センター

J A 中野市柿研究会

定期散布を徹底し、高品質な柿を生産しましょう！

果樹類全般で、昨年よりも7～10日程度早く生育しています。病害虫の防除は予防を意識し、早めの散布を実施しましょう。また、5月中旬以降に高温が続くとカイガラムシの早期発生が予想されます。カイガラムシが多発すると原料柿に悪影響を及ぼすため、発生園では必ず防除を実施しましょう。

病害虫防除

◎5月上旬（5月11日頃まで）の薬剤散布

●収穫前や収穫中の作物に飛散しないよう、十分注意する。

散布薬剤	水	100ℓあたり	散布日 月 日
	展着剤	10mℓ	散布量 ℓ
	サムコルフロアブル 10	20mℓ	収穫前日、3回以内
	スプラサイド水和剤	66g	収穫30日前、3回以内
対象病害虫	カキノヘタムシガ、ケムシ類、カキクダアザミウマ、カキノヒメヨコバイ カイガラムシ類、フジコナカイガラムシ幼虫、ツノロウムシ幼虫		
散布量	10a 当り 400ℓ * 若木の場合、樹体に十分かかる量を散布する。		

《注意事項》

- ケムシ類の発生がない園地は、サムコルフロアブル10を散布しなくてもよい。
- 訪花昆虫保護のため、薬剤散布は早朝（午前6時頃まで）に実施する。
- 主幹害虫の発生が見られる場合は、ガットサイドSの1.5倍液（45日前、2回）を主幹部・主枝及び亜主枝の分岐部に塗布または散布する。

防除の際は必ず栽培日誌に記帳しましょう